

本県の公立学校の状況について（概要版）

1 不登校について

	小学校	中学校	高等学校
平成29年度	218人	704人	419人
1,000人当たりの不登校児童生徒数	4.8人	30.8人	18.6人
平成30年度	262人	751人	397人
1,000人当たりの不登校児童生徒数	5.8人	34.2人	18.4人
令和元年度	294人	812人	398人
1,000人当たりの不登校児童生徒数	6.6人	38.4人	19.2人
増減（平成30年度比）	+32人	+61人	+1人

○小学校で、不登校児童数が増加

・令和元年度の1,000人当たりの不登校児童数は、平成30年度の5.8人から6.6人へ増加した。

○中学校で、不登校生徒数が増加

・令和元年度の1,000人当たりの不登校生徒数は、平成30年度の34.2人から38.4人へ増加した。

○高等学校で、不登校生徒数が同程度

・令和元年度の1,000人当たりの不登校生徒数は、平成30年度の18.4人から19.2人へ増加した。

2 いじめについて

	小学校	中学校	高等学校	特別支援学校
平成29年度	3,875件	288件	127件	10件
1,000人当たりの認知件数	84.8件	12.6件	5.3件	7.2件
平成30年度	5,329件	377件	118件	10件
1,000人当たりの認知件数	117.4件	17.2件	5.1件	7.1件
令和元年度	5,723件	505件	134件	26件
1,000人当たりの認知件数	129.1件	23.9件	6.0件	18.4件
増減（平成30年度比）	+394件	+128件	+16件	+16件

○すべての校種で、いじめの認知件数が増加

・令和元年度のいじめの認知件数は、すべての校種で増加した。

3 中途退学について

	高等学校	全日制	定時制	通信制
平成29年度	396人	192人	94人	110人
中途退学率	1.6%	0.9%	10.5%	6.8%
平成30年度	317人	217人	70人	30人
中途退学率	1.4%	1.0%	9.0%	2.1%
令和元年度	362人	216人	80人	66人
中途退学率	1.6%	1.1%	11.1%	4.4%
増減（平成30年度比）	+45人	-1人	+10人	+36人

○定時制・通信制で増加

・前年度は、全日制で増加、定時制・通信制で減少していたが、令和元年度については、全日制で減少し、定時制・通信制で増加した。

4 暴力行為について

小学校	暴力行為	暴力行為の内訳			
		対教師暴力	児童間暴力	対人暴力	器物破損
平成29年度	142件	29件	88件	5件	20件
1,000人当たりの発生件数	3.1件	0.6件	1.9件	0.1件	0.4件
平成30年度	117件	21件	85件	3件	8件
1,000人当たりの発生件数	2.6件	0.5件	1.9件	0.1件	0.2件
令和元年度	97件	22件	51件	0件	24件
1,000人当たりの発生件数	2.2件	0.5件	1.2件	0件	0.5件
増減(平成30年度比)	-20件	+1件	-34件	-3件	+16件

○小学校で、発生件数が減少

- ・令和元年度の発生件数は、平成30年度の117件から97件に減少した。(前年度比-20件)

中学校	暴力行為	暴力行為の内訳			
		対教師暴力	生徒間暴力	対人暴力	器物破損
平成29年度	351件	36件	191件	11件	113件
1,000人当たりの発生件数	15.3件	1.6件	8.3件	0.5件	4.9件
平成30年度	393件	62件	219件	8件	104件
1,000人当たりの発生件数	17.9件	2.8件	10.0件	0.4件	4.7件
令和元年度	186件	26件	94件	4件	62件
1,000人当たりの発生件数	8.8件	1.2件	4.4件	0.2件	2.9件
増減(平成30年度比)	-207件	-36件	-125件	-4件	-42件

○中学校で、発生件数が減少

- ・令和元年度の発生件数は、平成30年度の393件から186件に減少した。(前年度比-207件)

高等学校	暴力行為	暴力行為の内訳			
		対教師暴力	生徒間暴力	対人暴力	器物破損
平成29年度	72件	12件	45件	7件	8件
1,000人当たりの発生件数	3.0件	0.5件	1.9件	0.3件	0.3件
平成30年度	52件	7件	43件	0件	2件
1,000人当たりの発生件数	2.3件	0.3件	1.9件	0件	0.1件
令和元年度	52件	4件	36件	2件	10件
1,000人当たりの発生件数	2.3件	0.2件	1.6件	0.1件	0.4件
増減(平成30年度比)	±0件	-3件	-7件	+2件	+8件

○高等学校で、発生件数は横ばい

- ・令和元年度の発生件数は、平成30年度と同数であった。(前年度比±0件)